

# 「可能性を支援するということ」

## ～ワーク&ライフセミナー第6講座～

障がいがあっても、  
受け入れる環境づくりを！

2月15日（土）午後1時30分から、社会福祉センター「トモシア」多目的ホールで、「2025 ながおかワーク&セミナー」第6講座「可能性を支援するということ！」が開催され、32名が参加しました。

このセミナーは、連帯・協同による安心・共生の福祉社会の実現を目指し、長岡地区労働者福祉協議会（長岡地区労福協）が毎年主催しており、今年は全7講座が予定されています。



第6講座は、障がいのある方の雇用促進と社会参加を支援する就労継続支援A型事業を展開する「コロンブ株式会社」が企画・開催しました。司会を務めたコロンブの佐々木さんは、「日本には約1,000万人の知的、身体、精神障害のある方がいます。不登校の方は30万人いるといわれ、発達障害の可能性があるとされる子どもは約8.8%にのぼります。どうすれば障がいのある方が社会に出られるのか。本日は、新潟大学の学生が制作した映画を鑑賞し、新潟市と長岡市の若者サポートステーションの方々から支援内容や事例を伺いながら、皆さんと一緒に支援策について考えていきたいと思います」と挨拶しました。

次に、主催者を代表して矢島会長が「長岡地区労福協は、地域の労働者福祉や高齢者福祉の向上を図り、安心・共生社会の実現を目指しています。セミナーを通じて生活者の視点でつながりを持つことを大切にしています。本日は障がいに焦点を当てた内容です。障がいは個性であるという視点を持ち、同じ目線で考えていきたい」と挨拶しました。

続いて、映画『voice～あなたの声がききたい』の上映会が行われました。この映画は、新潟大学の学生たちが、障がい者と何ができるのか、地域での支援のあり方を深く探ることを目的に制作したものです。地域で書道を学ぶ障がいのある少年の活動や、障がい者の地域活動への参加、ダンス教室に通う障がいのある子どもたちの様子が描かれており、学生たちが当事者や関係者に直接インタビューを行うことで、障がい者理解の一助となる作品となっています。

上映後、映画制作に携わった近さんが「この映画は、障がいのある方と関わる人々が発信した作品です。映画制作の視点について説明し、無料で上映できるので、各地域や職場、学校などで上映会を開催してほしい」と呼びかけました。

休憩時間には、コロンブが運営する就労継続支援A型作業所「About me」で製造されたドリップコーヒーが提供されました。

その後、新潟地域若者サポートステーションの河田統括コーディネーター、長岡地域若者サポートステーションの近藤統括コーディネーター、そして佐々木さんが進行役を務め、若者サポートセンターの業務内容や障がい者雇用の実例が紹介されました。



地域若者サポートステーション（サポステ）とは、15歳から49歳までの若年無業者の就労を支援する機関です。支援内容は以下のとおりです。

- ① 相談対応 ② セミナー開催 ③ ジョブトレーニング（職場体験）
- ④ 定着・ステップアップ相談 ⑤ 学校連携 ⑥ 出張・訪問相談
- ⑦ 保護者相談 ⑧ スーツレンタル業務

サポステでは一般就職を目指す支援を行っていますが、障がいのある方が福祉関係の支援につながるケースもあります。その際、親御さんの理解を得ることが難しい場合もあるため、丁寧なサポートが求められます。

また、「その人の得意なことを活かし、仕事で活躍することが重要」「一人で悩んでいる方に寄り添い、自分の得意なことを生かせる仕事につなげることが可能である」との意見も述べられました。



さらに、可能性を支援するうえで「本人が納得できることが大事」「会話の壁を取り除く工夫をすれば、より良い支援につながる」といった話がありました。

最後に、佐々木さんが「障がい者支援や若者支援には、一人ひとりに応じた対応が必要です。障がい者や外国人を含め、会社経営の中に工夫を取り入れることで、誰もが働きやすい社会の実現を目指しましょう！」と挨拶し、講座は終了しました。

この講座を通じ、「会話をすること」「本人の得意なことを知ること」の大切さを再認識し、老若男女が共存できる社会の実現を目指していく必要性が改めて強調されました。